自己点検・自己評価総括表　大原トラベル・ホテル・ブライダル専門学校浜松校

作成者：山本薫
作成日：令和8年4月30日
サンプル数（評価数値の分布合計）：4

大項目	小項目	評価の基準	自己点検評価結果 3 満たしている	2 概ね満たしている	1 満たしていない
教育理念・目的・目標	1　教育理念、目的及び目標の設定等	教育理念等を踏まえ、当該専門学校としての目的及び目標を明確に設定し、養成する人材像を明確にしているか	4	0	0

（1）評価結果の分析

評価結果から、教育理念・目的・目標については全て「満たしている」と評価されており、令和6年度と比較して全員が同評価となったことから、教育活動の着実な向上が確認できる結果となった。これは、教育理念に基づき、目的および目標の明確化と継続的な改善に取り組んできた成果であるといえる。

今後も、専門学校として求められる人材像をより具体化し、実践的な教育の充実を図るとともに、主体的に行動できる学生の育成や、業界で働くための意識醸成に引き続き取り組んでいく。また、本校の教育内容や成果について、高校教員や保護者をはじめとする関係者への丁寧な情報発信を行い、理解の促進と連携強化に努めていく。

（2）今後の改善方策

今後の改善方策として、例年3月に実施している教職員研修において、引き続き学園の教育方針の共有と理解の徹底を図る。また、学校主催の各種インターンシップを通して、学生に対して現状の業界像を正しく認識させ、職業意識の向上につなげていく。

保護者等に対しては、入学式での挨拶や1年次秋の就職ガイダンスにおける就職活動状況・方法の説明、さらに2年次冬の模擬ブライダル実習への参加促進などを通じて、本校の教育内容や成果への理解を深める機会を継続的に提供していく。

さらに、本校全学科が文部科学省より職業実践専門課程の認定を受けていることを踏まえ、教育課程編成委員会や学校関係者評価委員会の機能を一層活用し、ホテル・ブライダル業界との連携を強化する。企業からの助言をカリキュラムに反映するとともに、実地体験を伴う実習の充実を図り、産学が連携して質の高い人材育成を推進していく。

自己点検・自己評価総括表　大原トラベル・ホテル・ブライダル専門学校浜松校

大項目	小項目	評価の基準	自己点検評価 3	2	1
			満たしている 3	概ね満たしている 2	満たしていない 1
教育課程、教育の実施、学修成果	1　教育課程の編成と授業科目	1. 学校の目的・目標及び養成する人材像を実現するために必要な教育課程編成・実施方針を作成した上で、教育課程を体系的に編成し、系統性・段階性に配慮した授業科目を配置しているか	3	1	0
		2. 外国人留学生に対して、日本国内に就職する際に必要となる日本社会の理解の促進に資する授業科目を300 時間以上開設しているか【注）外国人留学生キャリア形成促進プログラム】	0	0	0
	2 教育の実施	1. 授業科目内容に応じ、講義、演習、実験、実習又は実技など、適切な授業形態で教育が実施され、かつ、適切な教材が用いられるとともに、成績評価基準に基づき成績評価を行っているか	4	0	0
		2. 企業等と連携した、実習、実技、実験又は演習等（以下「実習・演習等」という）の授業を行っているか教育 目標の達成に必要な企業等と連携した実習・演習等の単位 時間または単位数の総授業時数に占める割合を具体的に設定しているか【注）職業実践専門課程】	4	0	0
	3 単位・卒業認定	学校の目的・目標及び養成する人材像を実現するために必 要な卒業認定方針（資格・免許等を含む修得させる職業能 力を含む）を学科・コースごとに定め、当該方針に基づき卒業の認定をしているか	4	0	0
	4 学修成果目標の達成状況	1. 卒業認定方針を踏まえ、学科・コースごとに職業能力を含む資質能力の修得（資格・免許等の取得や知識・技術・技能の修得含む。）についての目標を定め、その目標が達成できているか	4	0	0
		2. 学生が望む進路の実現に関する目標を定め、その目標が達成できているか	4	0	0

（1）評価結果の分析

評価結果から、各項目において高い達成状況が確認されており、教育課程の編成から教育の実施、学修成果の達成に至るまで、体系的かつ適切に運用されていると評価できる。教育課程の編成と授業科目については、学校の目的・目標および養成する人材像の実現に向けた教育課程が概ね適切に編成されているものの、一部に「概ね満たしている」という評価が含まれていることから、さらなる体系性や段階性の明確化、授業科目間の連携強化が今後の課題として考えられる。

教育の実施以降すべての項目で「満たしている」と評価されており、授業形態や教材の適切性、成績評価の妥当性に加え、企業等と連携した実習・演習の実施についても十分に機能していることがうかがえる。特に、実務と直結した教育が確実に行われている点は、本校の強みといえる。学生が目標とする進路を実現できている点からも、教育内容と指導体制が効果的に機能していることが示されている。

本校の教育活動は全体として高い水準で維持されている一方で、一部項目に見られる改善の余地については継続的に見直しを行い、より一層の質向上を図っていくことが望まれる。

（2）今後の改善方策

今後の改善方策として、全体として高い評価を維持しつつ、一部の課題に対する見直しを進めていくことが重要である。

まず、教育課程については、体系性・段階性をより明確にし、授業科目間の関連性を教職員間で共有するとともに、学生にも学修の流れが分かりやすくなるよう工夫を図る。また、教育の実施においては、企業連携による実習・演習の内容を継続的に見直し、業界の動向を反映した実践的な教育の充実に努める。

さらに、学修成果については、資格取得や就職状況に加え、企業からの評価等も活用し、多面的に成果を検証する体制を強化する。あわせて、将来的な外国人留学生の受け入れも視野に入れた教育体制の整備について検討を進めていく。

自己点検・自己評価総括表　　大原トラベル・ホテル・ブライダル専門学校浜松校

大項目	小項目	評価の基準	自己点検評価 3	2	1
			満たしている 3	概ね満たしている 2	満たしていない 1
学生の受入れ、学生支援	1 学生募集及び入学者の選抜、収容定員 の管理	1. 入学者の受け入れ方針、入学選考基準、方法を定め、入学希望者に明示し、入学者の選考を公正に行い、合否を決定しているか	2	2	0
		2. 学生の受入れは、入学定員に基づき適正に行っているか【注)修学支援新制度機関要件の確認】【注）外国人留学生キャリア形成促進プログラム】	3	1	0
	2 自主的な学習の促進に対する支援	学生の学力や学習状況を把握し、入学前教育や補習授業を 行うなど学習支援に取組んでいるか学生の円滑な学習に向け、シラバスの活用による学習成果の向上や自主的な 学習に関する適切な支援を行っているか	4	0	0
	3 多様な学生に対する支援	1. 適切な体制を構築し、障がいのある学生、海外からの留学生、社会人経験者など、多様な学生に対する支援を行っているか	1	3	0
		2. 特に海外からの留学生について適正な在籍管理、進路(就職)指導を行うとともに、日本人学生との交流の機会が確保されているか【注）外国人留学生キャリア形成促進プログラム】	0	0	0
	4 学生生活に関する支援	1. カウンセラーの配置、相談室の設置など、学生の相談に対応するための環境整備を行い、適切に運営しているか	0	4	0
		2. 留年者、退学希望者など学習の継続に困難な問題を抱える学生に対し適切な対応を行っているか	3	1	0
		3. 学校保健安全法に基づく学校保健計画を策定し、学生の心身の健康管理体制を整備し、適切に運用しているか	0	4	0
		4. 学生の経済的側面に対する支援体制を整備し、適切に周知、運用しているか	2	2	0
		5. 学生のキャリア支援、就職支援に対する支援体制を整備し、適切に周知、運用しているか	2	2	0

（1）評価結果の分析

評価結果から、自主的な学習の促進に対する支援については全て「満たしている」と評価されており、支援体制が十分に機能していることが確認できる。一方で、学生募集及び入学者の選抜、収容定員の管理や多様な学生に対する支援、学生生活に関する支援については「概ね満たしている」が多く、制度自体は整備されているものの、周知や運用面に課題が見られる。特に、多様な学生への具体的支援の充実や、各種支援制度の利用促進に向けた情報発信の強化が求められる。

総じて、現行の体制を基盤としつつ、実効性と周知の向上を図ることが今後の課題である。

（2）今後の改善方策

今後の改善方策として、まず学生募集及び入学者の選抜において、受入方針や選考基準のさらなる明確化と周知の徹底を図る必要がある。あわせて、安定した定員確保に向けた継続的な取り組みも求められる。

また、多様な学生に対する支援については、体制の整備に加え、個々の状況に応じた具体的かつ実効性のある支援の充実が課題である。

さらに、学生生活支援全般においては、各種支援制度の周知方法を見直し、学生が必要な支援を適切に活用できる環境づくりを強化することが重要である。

自己点検・自己評価総括表　　大原トラベル・ホテル・ブライダル専門学校浜松校

大項目	小項目	評価の基準	自己点検評価 3	2	1
			満たしている 3	概ね満たしている 2	満たしていない 1
教育実施組織・教員	1 教員の配置、募集、採用	1. 教育課程を実施するのに必要な、資格・要件を備えた教員を確保するために基準等（教員の採用基準等）を整備し、適正に運用しているか	2	2	0
		2. 教員の常勤・非常勤、年齢構成等、また教員一人当たりの授業時数等を把握しているかまた、教員の専門性、教授力を把握、評価しているか	2	2	0
	2 教員の組織編制等	1. 学校の目的に応じた分野の区分ごとに必要な教員組織を整備し、業務分担、責任体制を規程等で定めているか	1	2	1
		2. 教員間で連携、協力体制を構築しているか	4	0	0
	3 教員の資質の向上	1. 学校の教育活動の改善、工夫を行う FD(Faculty Development)などの取組や、教員の研究活動、自己啓発等への支援を行っているか	2	2	0
		1-2.　特に職業実践専門課程においては、企業等と連携して組織的に行っているか【注）職業実践専門課程】	3	1	0
		2. 教員の授業及び指導力等を修得・向上するための研修を企業等と連携して、組織的に行っているか【注）職業実践専門課程】	2	2	0

（1）評価結果の分析

評価結果から、教員の配置、募集、採用については、必要な資格や要件を備えた教員の確保が概ね適切に行われているものの、採用基準の明確化や授業時数、専門性の把握・評価については管理の精度向上が求められる。教員の組織、編制等では、業務分担や責任体制を定める規程整備が不十分であり改善が必要だが、教員間の連携は良好に機能している。

教員の資質の向上については、FD(ファカルティ・ディベロップメント)や自己啓発支援、研究活動が一定程度行われているが、特に職業実践専門課程での企業連携はさらなる強化が課題である。研修内容の充実や評価方法の改善も必要とされる。

総じて、教員体制の基盤は整っているものの、規程の明確化や運用徹底、企業連携強化に向けた取り組みが今後の重要課題である。

（2）今後の改善方策

今後の改善方策として、まず教員の採用基準や配置基準をさらに明確化し、授業時数や専門性の管理をより厳密に行うことが重要である。教員組織の業務分担や責任体制については規程を整備し、役割の明確化と運用の徹底を図る必要がある。

また、教員の資質向上に向けては、FD活動や研修の内容を充実させるとともに、職業実践専門課程における企業連携を組織的に強化し、実践的な教育力の向上を目指すべきである。研修の効果を評価し、改善を継続的に行う仕組みも整備していくことが求められる。

これらの取り組みを通じて、教員組織の強化と教育の質の向上を図り、学生の学びをより充実させていくことが目標である。

自己点検・自己評価総括表　大原トラベル・ホテル・ブライダル専門学校浜松校

大項目	小項目	評価の基準	自己点検評価		
			満たしている 3	概ね満たしている 2	満たしていない 1
教育環境	1 教育環境の整備	1. 教育上の必要性に対応できる施設・設備、機械器具等を備えているか	1	2	1
		2. 学生の学習支援のための施設(自習室等)を整備しているかまた、学生の休憩、食事のためのスペースを確保しているか	3	1	0
		3. 図書室を設置し、専攻分野の教育に必要な専門書及び参考図書を配架し、必要に応じて学生が閲覧できるようにしているか	1	2	1
	2 安全対策、防災組織	1. 学校保健安全法に基づく学校安全計画を策定し、学校における安全対策を適切に行っているか	2	2	0
		2. 火災の発生や防災に関する組織体制を整備し、適切に運営しているか	2	2	0
	3 施設・設備等の点検、改善等	1. 施設・設備等の日常点検、定期点検、補修等を適切に行っているか	2	2	0
		2. 施設の改築・改修、設備の更新等の計画を定め、適切に実施しているか	3	1	0

(1)評価結果の分析

評価結果から、教育環境の整備では、必要な施設や設備、特に施設、設備、機械器具等や図書室の充実が課題である。一方、学習支援施設や休憩スペースは比較的整っている。

安全対策、防災組織は概ね適切に運営されているが、さらなる充実が望まれる。施設・設備等の点検や補修も定期的に行われているが、運用の徹底と計画的な改修・更新が必要である。

全体として、教育環境と安全対策の強化を図り、より良い学習環境の整備が課題となっている。

(2)今後の改善方策

今後の改善方策として、まず教育に必要な施設・設備の充実を図ることが重要である。特に施設、設備、機械器具等の整備や図書室の拡充を進め、学生が専門的な学びを深められる環境を整備する。

また、安全対策や防災組織の運営については、学校安全計画の見直しや防災訓練の充実を通じて、実効性のある体制強化を図る必要がある。

さらに、施設・設備等の点検や補修については、日常的な点検の徹底と計画的な改修・更新を推進し、安心・安全な学習環境の維持に努めることが求められる。

自己点検・自己評価総括表　大原トラベル・ホテル・ブライダル専門学校浜松校

大項目	小項目	評価の基準	自己点検評価		
			満たしている 3	概ね満たしている 2	満たしていない 1
教育活動の基盤と改善・向上の取組	1 中期事業計画と財務基盤	1. 当該専修学校が策定している中長期的計画に、教育目的、教育目標の実現に向けた具体的な内容が位置付けられているか	1	3	0
		2. 当該専修学校の教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財務基盤を確立しているか	2	2	0
	2 学校運営	学校運営の組織体制を整備し、適切な運営が行われているか（職業教育に関するマネジメント（教育の企画・設計・運営等）における責任体制を含む。）。	1	3	0
	3 学校評価の実施と改善活動	1. 学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会等外部からの意見を反映するなど、関連企業等団体、地域社会等からの意見を当該専修学校の運営やその改善・向上において活用しているか	2	2	0
		1-2. 特に職業実践専門課程においては、教育課程編成委員会を年2回以上開催しているか【注）職業実践専門課程】	3	1	0
		2. 学校評価を実施し結果及び改善状況についての情報を公表しているか	3	1	0
		3. 学校評価の結果に基づく改善への取組を組織的かつ継続的に行っているか	2	2	0
	4 社会からの理解と情報の公表	1. 当該専修学校の教育活動、学修成果、学校運営等の状況に関する情報を積極的に公表しているか	3	1	0
		2. 教育目的・目標の達成状況や活動状況について関連する教育機関、産業界等をはじめ、社会全体からの理解を得るよう取組んでいるか	3	1	0

（1）評価結果の分析

評価結果から、教育活動の基盤は概ね整っているものの、改善の余地があることが分かる。中期事業計画では教育目的や目標の具体化が不十分で、実践との連動強化が必要である。また、財務基盤は概ね安定しているが持続性の向上が課題である。

学校運営では責任体制や業務分担の明確化が求められ、学校評価や改善活動では委員会開催頻度や情報公開の充実が課題となる。社会への情報発信も行われているが、理解促進のための取組強化が必要である。

（2）今後の改善方策

今後の改善方策として、中期事業計画における教育目的・目標を具体化し、達成指標を明確にしたうえで教育活動との連動を強化することが重要である。財務基盤については、収支の適正化や安定的な運営体制の構築により、持続可能性の向上を図る。

学校運営では、責任体制や業務分担の明確化と共有を進め、組織的な運営を徹底する。学校評価と改善活動については、委員会の意見を反映した改善を継続的に実施し、結果の公表とあわせて透明性を確保する。また、教育活動や成果の積極的な情報発信により理解促進を図り、教育の質向上と課題解決につなげる。